蝶と蛾 *Tyô to Ga* **44** (1): 28-30, June 1993

# キョウチクトウスズメを新居浜市で採集

緒方正美[1]・三木正男[2]

[1] 662 西宮市苦楽園一番町 10-76
[2] 792 新居浜市西の土居町 2-1-55

# *Daphnis nerri* (Linnaeus) (Lepidoptera, Sphingidae) vagrant to Shikoku

Masami OGATA[1] and Masao MIKI[2]

[1] 10-76, Kurakuen-ichiban-cho, Nishinomiya, 662 Japan
[2] 2-1-55, Nishinodoi-machi, Niihama, Ehime, 792 Japan

**Abstract** *Daphnis nerii* (Linnaeus) is recorded from Shikoku for the first time. A female specimen was captured at Niihama, Ehime Pref.

**Key words** Lepidoptera, Sphingidae, *Daphnis nerii*, Shikoku, migration.

キョウチクトウスズメ *Daphnis nerii* (Linnaeus, 1758) はアフリカからインドを経て東南アジアに広く分布し，ヨーロッパでも南から飛来するので，図示されることも多く，よく知られているスズメガである．我国では偶産蛾として度々奄美大島や沖縄本島から記録され，近年では鹿児島市で大発生を見たことがある．しかし四国からは同属のトモエスズメ *Daphnis hypothous* (Cramer, 1780) の記録はあるが，本種の記録はなかった．今回著者の一人，三木が採集した本種を確認したので，報告する．

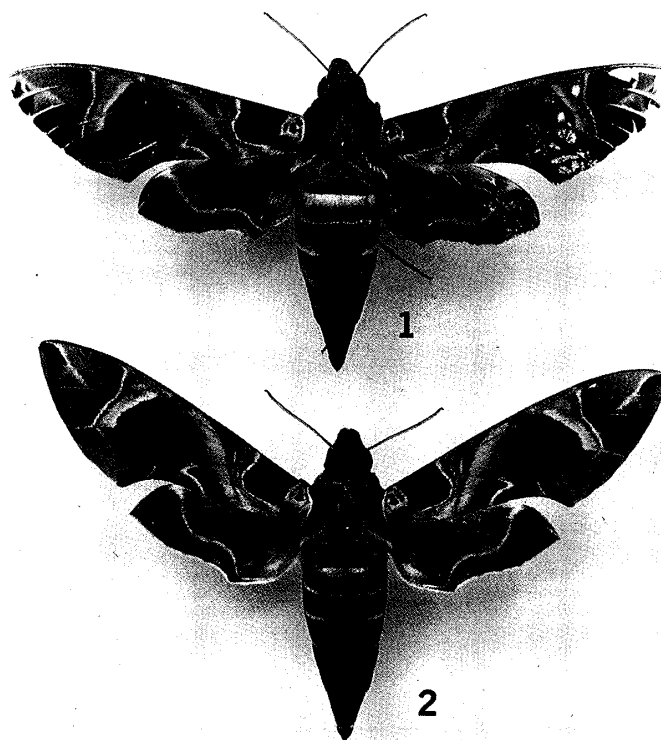
データ：1♀，16. xi. 1966，愛媛県新居浜市前田町（三木正男採集，保管）(Fig. 1).

三木は当日午後6時頃，自宅玄関わきの低い庭木に止っている本個体を採集した．数年後県立自然科学博物館で，新居浜は外材が多量に入荷するので，それについてきた外来種かも知れぬと言われたが，種名の確定ができぬままになっていた．その後緒方と共に検討し，今回の発表に至ったものである．

キョウチクトウスズメの翅表の色彩は多少の変異はあるとはいうものの，一般的には緑色が顕著なので，他種との識別は容易であるが，採集された個体は緑色の色調が殆んどなく，全体に赤褐色をおびている．しかしトモエスズメに比し，明るい褐色で，斑紋は勿論一般のキョウチクトウスズメと異ならない．この色調については人工的な影響，たとえば殺虫に使用した薬品の影響や時日の経過による褪色等も考えられたが，三木の記憶では当時大型のガに対しては青酸カリの毒瓶の使用又はアルコールの注射をしており，採集時はいうまでもないが，その後の時日の経過中に著しく変色したと意識したことはなかった．したがってある程度の褪色はあろうが，個体変異によるのではないかと思われる．

キョウチクトウスズメは我国では偶産蛾とされるが，本個体はどこからどのようにして新居浜市に到達したのであろうか．標本の色彩，斑紋等からはそのような個体群の分布地を推定することはできなかったが，新居浜市への到達径路はいろいろ考えられる．

ヨーロッパではアフリカなど南方からの「渡り」と考えられているが，我国の記録では毎年のように“渡って”くるとは言いがたい．沖縄や鹿児島県では地理的に見て「渡り」の可能性は理解しやすいが，四国の瀬戸内海側の新居浜市についてはそうは考え難い．

偶産蝶の場合は台風が問題にされているので，その点を調べてみたところ，採集月日に近いもので，1966年（昭和41年）中に愛媛県に影響のあった台風は13号，19号，21号，24号がある．しかし南方海上を東から西へ通過した8月の13号を除き，四国又はその近くを北方へ向って通過した残りの3つは9月のものである．したがって2ヶ月近い日数のずれからこの個体がこれらの台風に乗ってきたとは考えに

Figs. 1-2. *Daphnis nerii* (Linnaeus). 1. ♀, Niihama, 16. xi. 1966. 2. ♀, Kagoshima, 14. ix. 1980.

くい.

新居浜市は別子銅山から発展した工業都市で，外国から多くの原材料が入ってくる．1966年（昭和41年度）の輸入状況は燐鉱石，加里，銅鉱，ニッケル鉱，ボーキサイト等の鉱産物及び木材，パルプ等で，それらの産出国にはインドネシア，フィリピン，マレイシアなど我国に比較的近い南方各国が含まれている．輸入された木材は55000坪の水面貯木場におかれ，当時は満杯の状態であった（現在木材の輸入は他港に移っている）．ボーキサイトの置場は岸壁のすぐそばで，新居浜市で繁殖している南方系のモエジマシダはここで初めて発見されたという実例がある．当時の三木の自宅は樹木の多い住宅街にあり，船舶の停泊したと思われる場所まで1000-3000 m，もっとも出入の多かった本港中央部までは約2500 mであった．

移動性の強いキョウチクトウスズメではあるが，以上のことを考えると瀬戸内海に面した新居浜市に本個体が達した可能性は気流や台風によったと考えるよりは船舶によるのではないかとの思いが強い．したがって本個体を“渡り”と呼ぶような自然的な進入による偶産蛾，migrantというのは不適当で，人為的な営為による字義通りの偶産蛾といいたい．

報告を終えるにあたり，著者間の仲介の労をとられた北添伸夫氏，写真撮影についてご配慮頂いた若林守男氏，資料を頂いた松山地方気象台にお礼を申し上げる．

## 文　献

D'Abrera, B., 1986. *Sphingidae Mundi*. ix, 226 pp. E. W. Classey, U. K.
Diehl, E. W., 1980. Sphingidae. *Heterocera sumatrana* **1**: i-vii, 1-97, pls. 1-11.
井上　寛，1982．日本産蛾類大図鑑．講談社，東京．

宮田　彬，1982．偶産蛾考 — 海を渡る蛾 — 1．ちょうちょう **5** (12)：19-28．
———，1983．偶産蛾考 — 海を渡る蛾 — 6．ちょうちょう **6** (10)：17-45．
———，1983．蛾類生態便覧 — 環境指標としての蛾類．1451 pp. 昭和堂印刷出版．諫早市．
Seitz, A., 1928-1929. Family : Sphingidae. *In* Seitz, A. *Macrolepid. World* **10** : 523-576, pls. 56c, 60-68.

## Summary

A female of *Daphnis nerii* (Linnaeus), a well-known migrant in Europe, was captured at Niihama, Ehime Pref., Shikoku, on Nov. 16, 1966 by M. Miki. In Japan, this species has been often recorded in the southwestern islands such as Okinawa and Amami-Oshima and recently a temporary outbreak was observed in Kagoshima Pref., southern past of Kyushu. The above city, Niihama is located in the northern site of Shikoku, facing the sea of Setonaikai. For the sake of industrial activities, a lot of metal, timber and chipped wood for pulp are imported from Southeast Asia. It is probable that this female is not only a migrant but a smuggler transported by a ship.

(Accepted February 22, 1993)

Published by the Lepidopterological Society of Japan,
c/o Ogata Hospital, 2-17, Imabashi 3-chome, Chuo-ku, Osaka, 541 Japan